

2025 年度 学校法人 三幸学園 福岡医療秘書福祉&IT 専門学校

自己評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 渡邊 慎也

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし困難を希望に変える」のもと、医療分野の学校として「医療現場で医療事務・診療情報管理を通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、医療分野として「相手のこうしてほしいを理解し、考え続ける人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

①前年度重点施策振り返り

学園の教育目標や育成人材について統一した認識のもと、医療業界や保育・介護業界のニーズを把握し、社会に必要とされる学校の実現に向けた取り組みを実施した。

【取り組み】

- ・教員が積極的に現場へ足を運び、現場のニーズを把握した上で、その内容を学生へ還元できるように、教育課程に反映した。具体策の一つとして、教員の業界理解を促進する為に短期間のインターンシップや施設や病院見学を取り入れ、教育内容の充実を図った。
- ・相手のこうしてほしいを理解し、考え動ける学生の育成（「技能と心の調和」の浸透に向けた取り組み）
- ・検定合格率の向上、退学者数の低減を目指し、タイムリーかつ学生の理解と納得が得られる教育を目指す。

【振り返り】

- ・目的を意識させる授業展開や、現場での実例を取り入れることで、学生が実際の業務内容を具体的にイメージしやすいような授業内容の提供を、引き続き実施していく。
- ・現場訪問の充実に向けて取り組んだものの、十分とは言えなかった。引き続き、医療現場への訪問を強化し、教育内容のさらなる充実につなげていく。
- ・挨拶等を自らできる学生が増えた。引き続き「技能と心の調和」を掲げ、自ら考え行動できる学生の育成を行っていく。
- ・検定合格率の向上についてはすべての検定では目標を達成できなかったため、引き続き重点的課題として取り組んでいく。
- ・学生間のモチベーションの差による授業意欲の低下が見られたため、引き続き規律遵守を徹底する。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

(評価項目) (評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

①課題

- ・社会経済のニーズ等をいち早くキャッチし学生へ伝えることが必要である。
- ・社会のニーズを踏まえたカリキュラムの運営方法について検討を進める必要がある。

②今後の改善方策

- ・変化する業界のニーズを把握するために、実習巡回や卒業生訪問時に学生をご指導いただく現場担当者へのヒアリングを積極的に実施し、学校行事等に出席いただいた際には直接ご意見をいただく機会を設ける。
- ・実習巡回や卒業生訪問を強化し、現場からのご意見をいただくことで、現場が求める教員の資質についての理解及び指導を深める。

③特記事項

(診療情報管理士科)

- ・2026 年度からコース選択制を導入する。1 年次前期の共通授業で医療・薬業に関する基礎科目を学び、1 年次後期からは自分の適性を把握した上でコース選択ができることで将来の進路選択の幅が広がる。

(2)学校運営

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

①課題

- ・業務の効率化の為、紙ベースで実施していたものを Google フォームに変更するなど業務の削減・効率化を図っている段階である。

②今後の改善方策

・更なる情報システム化等による業務の効率化及びペーパーレス化を進めていく。

③特記事項

特になし

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

①課題

・学科編成に伴い、さらにキャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラム編成（実習含む）が必要である。

②今後の改善方策

・さらにキャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラム編成について継続的に検討する。

③特記事項

- ・授業アンケートや学校生活アンケートに対し、全体での振り返り後に学科ごとでも振り返りを実施している。学科単位での課題を整理し、解決策や改善点を教員全体で共有して取り組んでいる。（介護福祉科）
- ・使用テキストの改訂に伴い、カリキュラム全体の見直しを行い、教員及び講師へ周知した。
- ・産学連携を強化し、福岡市認知症フレンドリーセンター・博多区地域保健福祉課・就労支援施設・訪問介護事業所・看取り介護士の講義を受講するなど、企業連携を強化している。さらに、認知症当事者の方との交流会など、対象となられる方との触れ合いも大切にし、授業に取り入れるよう工夫している。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格（免許）取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

①課題

- ・卒業生の卒業後の状況を把握する方法を増やし、教育活動へ活用する仕組みの構築が必要である。
- ・資格取得率の向上に向けた取り組みを強化する必要がある。

②今後の改善方策

- ・卒業生の卒業後の社会的評価の把握について、客観的に確認できるツールの作成や情報共有を行う。
- ・検定対策授業を担当する講師だけではなく学校全体で、学生の資格試験に対するモチベーションアップを図る。
- ・検定日までの期間の宿題等を調整し、授業中の時間を有効に活用した検定対策を実施する。

③特記事項

- ・検定取得に向けた「試験対策 WEEK」の活用等により、学校全体で資格取得率が向上した。

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4

学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

①課題

・卒業生への就職支援体制を強化する必要がある。

②今後の改善方策

・学校 HP 上にある卒業生向けのページを活用し、中途採用の求人情報を掲載することで卒業後の就職支援体制を強化する。

③特記事項

・学生に対し就職先への理解促進のため、施設種別ごとの就職ガイダンスを実施し、業界内就職につながった。
 ・同窓会を実施することで、卒業後の活躍や悩みをヒアリングし、相談を受ける機会を設けた。
 ・姉妹校の高校においての授業で医療業界を説明しにいきキャリア教育・職業教育を行っている。

(介護福祉科)

・職業訓練生の受け入れに向け、事前オリエンテーション等の実施を行い教育体制の整備を進めた。
 ・教育訓練給付金の周知を強化するため、来校者への案内や SNS での情報発信を行い、社会人にとって学びやすい環境整備に取り組んだ。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

①課題

特になし

②今後の改善方策

特になし

③特記事項

- ・防災マニュアルを年度初めに全クラスへ周知するとともに、掲示板に掲載し、いつでも確認できる状態にしている。
(介護福祉科)
- ・2026 年度より実習支援システムを導入し、実習施設と学校、学生の三者がシステム上で学生情報や実習記録の記入や指導ができるように整備した。

(7)学生の実入れ募集

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

①課題

学生募集活動において、教育成果を正確に分かりやすく伝えていく必要がある。

②今後の改善方策

学生募集活動において、高校1年～2年生など早期から教育成果を正確に分かりやすく伝え、進路選択に役立つ情報発信を行う。

③特記事項

- ・留学生の入学者数が増加した。引き続き積極的に広報活動に取り組んでいく

(8)財務

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

①課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

②今後の改善方策

特になし

③特記事項

2025 年度は第3期中期経営計画(2023 年度～2027 年度)の 3 年目にあたり、東京未来大学及び小田原短期大学の中期計画改定を反映し、第3期中期経営計画＜第 2.0 版＞を策定し年度開始時より適用した。中期経営計画及びその進捗状況はホームページ上に公開している。

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

①課題

- ・個人情報の取り扱いやコンプライアンスの遵守について継続して徹底していく必要がある。
- ・SNS の発信内容には十分留意する必要がある。

②今後の改善方策

- ・現時点でコンプライアンス上の問題になるようなことは起きていないが、継続して啓蒙活動を行い、教職員の意識向上に努める。

③特記事項

- ・年度初めに全職員を対象としたコンプライアンス研修を実施した。

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

①課題

・ボランティアの機会の創出と学生への告知の強化を図る必要がある。

②今後の改善方策

・随時ボランティア情報を学生に掲示できるように SANKOGAET(学内情報伝達用アプリ)を活用し、内容を周知していく。

③特記事項

（介護福祉科）

・ボランティアの募集については、案内スペースに掲示するとともに、学生に口頭で説明。ボランティア毎に担当教員を決めることで、申し込みから終了後の報告書まで一貫して指導を行うことが出できた。

コロナ禍において中学・高校の間に学外活動の制限を受けた年代の学生であることから、様々なボランティアに興味を持つ学生が多い傾向にある。

4.学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

・介護人材育成を担う養成校として、今後も可能な限り学校に協力していきたい。

・学生への指導については、1日の指導のみで意識が大きく変わるものではなく、日頃からの帰属意識の醸成や日頃の積み重ね、教員や学生同士の関わりを通じた学びが重要である。

・今後も現場に足を運び、業界が求めるニーズを的確に把握し、相手の要望を理解した上で自ら考え行動できる学生の育成を継続していきたい。